

胃癌予防のためのピロリ菌治療

ピロリ菌の除菌治療を受けた早期胃癌内視鏡治療後の患者では、プラセボの投与を受けた患者よりも、異時性胃癌の発生率が低く、胃体部萎縮性胃炎の改善が大きかったことが明らかとなり、研究結果が *New England Journal of Medicine* 誌に掲載されました。



追跡期間 5.9 年の間、異時性胃癌は、除菌群 7.2%とプラセボ群 13.4%で発生しました(ハザード比 0.50, $P=0.03$) .



萎縮性胃粘膜は、除菌群 48.4%とプラセボ群 15.0%で改善されました ($P<0.001$) .